

Y! mobile & Kohara RT

2015 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第3戦

SUPERBIKE RACE in MOTEGI

栃木県・ツインリンクもてぎ(1周=4.801379km)

■大久保 光 ST600 予選:2番手 (タイム:1分56秒123) 決勝:13位

■伊藤 和輝 ST600 予選:17番手 (タイム:1分58秒311) 決勝:15位

■岡崎 静夏 J-GP3 予選:15番手 (タイム:2分03秒204) 決勝:11位

天候: 2015年5月30日(土) 晴れ コース: ドライ

5月31日(日) 晴れ コース: ドライ

観客動員数: 1万1,800人 (2日間合計)



39

大久保 光 Hikari Okubo
class : ST600
machine : Honda CBR600RR

40

伊藤 和輝 Kazuki Itoh
class : ST600
machine : Honda CBR600RR

22

岡崎 静夏 Shizuka Okazaki
class : J-GP3
machine : Honda NSF250R

表彰台が見えていた大久保。最終ラップにまさかのアクシデント!

3人の若いライダーで臨んでいるY!mobile & Kohara RT。2戦目は、関東圏の栃木県・ツインリンクもてぎが舞台。チームにとってはホームとも言えるコースだ。天気予報は、当初、決勝日に雨マークがあったが、土曜、日曜とも空は晴れ渡り、5月とは思えない暑さとなった。

初日となった金曜日は、曇り空となりJ-GP3クラスは、2本ともドライコンディションで走ることができたが、ST600クラスの2本目は霧雨に見舞われてしまい大久保は走行を見合わせた。一方、少しでもST600マシンに乗っておきたい伊藤は、計測11周を回周した。初日は大久保が7番手、伊藤が16番手につける。J-GP3クラスの岡崎は2回目のセッションで2分02秒945をマークし16番手と感触はよかつた。



土曜日の公式予選は暑さとの戦いにもなった。この日、最初に行われたJ-GP3クラスは、それほど路面温度は上がっていなかったものの、それでも約40度と高く、お昼の一番気温の高い時間に行われたST600クラスは約50度まで路面温度が上がる厳しいコンディション。このコンディションの変化もあり、マシンセット、そしてタイヤのフィーリングなどをアジャストしタイムアタックして行く。前日に比べ路面温度が上がったことで全体的にタイムが出ていなかつたが岡崎は2分03秒204をマークし15番手につける。ST600の伊藤は、オートポリスの経験を生かし早めにコースインしアタック。大久保は、セッション終盤にピットアウト。一気にタイムを上げると1分56秒123をマークし2番手に食い込み、フロントローを確保した。

今回、J-GP3クラスは、20周という長丁場で争われた。それだけ集中力が要求され、タイヤマネジメントも重要な要素となる。スタートを決めた岡崎は、9台の7番手争いの集団の中、積極的な走りを見せ一時はグループのトップに立つ。レース終盤にトップを走っていたライダーが転倒したこともあり、6番手争いの集団となり、シングルフィニッシュも見て來ていた。最終ラップには10番手で突入。激しいバトルの末、スリップストリームを使われ11位でゴール。悔しい展開となつたが自己最高位を更新。次戦はさらに上位を目指す。



ST600は18周で行われたが、予選・決勝と1セットしか使えない規則の中では、長い周回数と言えるだろう。セカンドグリッドからスタートした大久保は、2番手で1コーナーに入るとオープニングラップは、そのままの順位でホームストレートに戻ってくる。しかしトップを追うことはできず、3周目の3コーナーでデチャ選手にかわされ3番手に、さらに大崎選手にもかわされ4番手に落ちてしまう。トップには離されてしまったが、デチャ選手との3番手争いを展開。後方から2台が追い付いてくるが、事実上、デチャ選手との一騎打ちとなつた。そして最終ラップを迎える。大久保はヘアピンへのブレーキングでインを突き前に出る! ST600クラス初表彰台獲得か!?と思わ



れたが、ヘアピンの立ち上がりで大久保が僅かにはらむと、デチャ選手がインにラインを取る。ここで両者は接触し共に転倒。目の前にあった表彰台が逃げて行った瞬間だった。すぐに再スタートを切るものの大久保は13位でゴールするのが精一杯だった。伊藤は、単独での走行となり15位でチェックフラッグを受けポイントを獲得した。



大久保 光 コメント

「ツインリンクもてぎは、Hondaのコースですし、CBR600RRも、まだまだ戦えることを証明したかったので表彰台に上がりたいと思っていました。最終ラップのヘアピンの進入でインを突いて前に出たのですが、立ち上がりでラインが交錯し、イン側に入ってきたデチャ選手が転倒し、すぐわれる形でボクも転倒してしまいました。ライダーなら誰しも勝負する場面だったと思いますし、レーシングアクシデントなので仕方がないと思います。すぐに再スタートし13位でゴールできましたし、次回こそ表彰台に上がれるように頑張ります」

伊藤 和輝 コメント

「前回はピットスタートだったので、ST600でグリッドから普通にスタートするのは今回が初めてだったので緊張しましたが、うまくスタートを決められてよかったです。ただ、ぶっつけ本番のセッティングで決勝に臨んだので、フィーリングをつかむまでベースをうまく上ることができなかったのが反省点です。まだまだ力不足ですが、レースを完走し、ポイントを獲れたことでST600のマシンをまた理解することができましたし、次回につなげられると思います。事前テストからベースを上げて大久保選手と一緒に走れるようにしたいですね」

岡崎 静夏 コメント

「ツインリンクもてぎは、苦手意識があるのですが事前テストから調子よく走ることができ、レースウィークリーに入ってしまいながらも自己ベストを更新できました。マシンの調子はよかったですし、レースは自分の走りができる結果はついてくると思っていました。スタートはうまく行き、6位争いの集団でのバトルになりましたが、守りに入ることなく最後まで攻められたことは大きな収穫でした。一ヶタでゴールしたかったのですが、11位も自己最高位だったので、ここから上げて行きたいです。今回も小原監督、伊藤さんを始め、多くの方にアドバイスをいただき本当に感謝しています。次回こそ、シングルフィニッシュ、そして表彰台を狙える走りをしたいと思っています」

小原 齊 監督コメント

「大久保はST600では2戦目でしたが頑張ってくれていますね。最終ラップに3位になるべくトライした結果ですから評価できるレースだと思います。そこで攻めずに4位でゴールする選択肢もありましたが、攻める気持ちは、レーシングライダーに必要なことですからね。伊藤もST600、2レース目ですが、着実に進化してきています。早く大久保に追いついて行って欲しいですね。3人とも、まだまだノビしきがあるので楽しみですね」

Y! mobile & Kohara RT

〒336-0977 埼玉県さいたま市緑区上野田607-1
TEL.048-878-7020 FAX.048-878-5688

NISSIN

YUTAKA
Chair for the Future

SHOWA

RK
TAKASAGO CHAINNGK
SPARK PLUGS

MOTUL

SERIAL
X-RAM

F.C.C.

TSR
TECHNICAL SERVICE

Micronol

ENDURANCE
RACING

B TITANIUM

ROUTE ONE